

平成 22 年(2010 年) 10 月 21 日

## 平成 22 年度 滋賀県がん診療連携協議会

### 第 2 回がん登録推進部会 議事概要

日時：平成 22 年(2010 年) 10 月 21 日(木) 16:00～17:20

場所：滋賀県立成人病センター新館 11 階会議室

出席者：目片 英治、太田 悦子(滋賀医科大学医学部附属病院)

土井 隆一郎、森 明子(大津赤十字病院)

浅田 佳邦、寺村 清一郎(公立甲賀病院)

寺村 康史、(実務者代理)(彦根市立病院)

東出 俊一、堀江 智美(市立長浜病院)

川上 賢三、田中 一史(成人病センター)

欠席者：加賀爪 雅江(健康推進課健康づくり支援室)

<敬称略>

#### 1. 部会長のあいさつ

- 大津赤十字病院の委員変更(早雲先生 土井隆一郎先生)
- 平成 22 年 10 月 15 日横浜で開催された地域がん登録全国協議会第 19 回学術集会(第 32 回国際がん登録協議会学術総会も同時期開催)に参加した。アジア各国の地域がん登録の現状を知る機会を得た。特に国民総背番号制が導入されている韓国では、受診による病名が収集され網羅的に国民のがん罹患状況を把握する仕組みがある。それに比較し、日本の地域がん登録実施県状況では、がん診療連携拠点病院で収集されるがん患者数が、地域がん登録で収集されるがん患者数を上回っている状況にある。全国の罹患数が不明な状況では、均てん化の評価にならないのではないかと危惧する。

#### 2. 討議

##### (1) 院内がん登録全国集計について

10 月 8 日に開催された都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会で、がん診療連携拠点病院より収集された 2008 年院内がん登録件数より、各都道府県の患者把握率が発表された。滋賀県は 41.4%と全国のなかで低いということであった。

しかし、2008 年の収集データには、滋賀医科大学附属病院の登録は含まれていないことや、把握率 90%を占める県では基幹病院がほぼがん診療連携拠点病院に指定されいることから、患者把握率はあくまで把握状況であって、がん登録精度を示すものではないと考える。

##### (2) 2008 年診断分腫瘍データ収集について

事務局：国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報部・統計部院内がん登録室  
担より滋賀県は精度が低いとの指摘があった。具体的事例での照会はなく詳細は不明である。滋賀県の 2008 年診断分腫瘍データ収集したものを CD に用意したので、各施設で集計を行い、臨床医と協議、登録精度を確認してはどうか。各施設実務者がノウハウを共有することで精度向上をはかってはどうか。

東出：がん診療連携拠点病院院内がん登録 2008 年症例全国集計調査報告(概数・速報版)によると、手術症例であるにもかかわらずステージ不明が多い。その点を指摘さ

れたのではないか。肺がんの病理学的 UICC ステージ不明率 40.7%の数字が気になる。実務者が診療録から十分に拾えていないのかもしれない。

川上：あるいは、診療録に記載が漏れているかもしれない。治療前 UICC ステージは、内科医にとってインセンティブが働かない場合が多いので、診療録へ記載するよう医師への働きかけることも重要と考える。

目片：セカンドオピニオンがあると不明は増えないか？

田中：セカンドオピニオンは集計対象からはずされているはずですが。緩和ケア科で初発症例の場合、詳細不明が多い。先程の治療前の診断で言うと、特に「N」が明確に記載されていないことが多い。

寺村（康）：早期癌で不明が増えるのではないか？

田中：実務上のルールとして、胃・大腸においては早期のうち「壁進達度 m」であれば、N,M の検索が行われていなくても N0,M0 としている。

浅田：しかし、臨床では NX、MX と記載しているかもしれない。

田中：こういった点は、各施設で再度確認の必要がある。また、個別の登録段階が正確であっても、データ提出の過程でなんらかのエラーが起これば不明となっている可能性もある。

東出：今回事務局より配布された滋賀県 2008 年データ診断分腫瘍データを基に、各施設で、TNM の判明状況とステージ不明について再確認を行ってはどうか。

### （ 3 ） 2009 年診断分腫瘍データ調査への対応について

事務局：前項の討議結果をふまえて、2009 年診断分について、国立がん研修センターへ提出するまでに一度実務者で各施設データを持ち寄り、ステージ不明等の検証を行うこととしたい。日程については後日お知らせする。

### （ 4 ） その他

事務局：院内がん登録実務指導者研修会等会議にて知り得た情報として、UICC「TNM 悪性腫瘍の分類」第 7 版への対応について近々に国立がん研究センターより通知がある事、2012 年診断分より「院内がん登録の標準登録様式」を改訂して実施、項目は地域がん登録にすり合わせる形で簡素化されるようである。

以上